

## 言葉ひとつの重み

忍野村立忍野中学校三年 白須 紗里李

私はLINEをしています。もちろん、周りの友達もほとんど毎日のように、LINEを情報伝達の手段として使用しています。そんな中、近年、SNSによるトラブルが毎日のように起こっています。私も過去にSNSによるトラブルがありました。仲が良かった友達が、私の悪口をSNSに書き込んだのです。私はそれを見つけた時、怒りと悲しみが混じった複雑な気持ちになりました。仲が良い友達であろうと、悪口は「いじめ」です。私は、これまでに「人権」について考えたことがなく、「いじめ」も人権に関することだと知りませんでした。「いじめ」が人権に関することだと知った時「人権」について考えさせられました。

人権とは、文字どおり「人の権利」です。人種や民族、性別を超えて、誰もが持っている、誰にでも認められている基本的な権利です。その権利を、自分勝手な言動で汚したり侵したりして良いのでしょうか。いじめる側の人間は軽い気持ちでも、いじめを受けた側からすると、精神的に追い詰められ、最悪の場合、自ら命を絶つ人もいます。

私の母は去年、他界しました。母は、どちらかと言えば、子供の頃から傷つきやすく、過去には何度も自分自身を責めたことがありました。母が亡くなった後、私は「お母さんのそばにずっといたのに、何も気付くことができなかった。もっと話していれば……。お母さんが亡くなったのはきっと私のせいだ。」と自分を責めました。後日、母の携帯の中身を見ると、「もう疲れた。死にたい。」とSNSに書かれていました。母はSNSにあまり興味がなかったので、私と同じようなトラブルは起きないだろうと思っていました。しかし母にも「言葉の暴力」は襲いかかっていたようです。恐怖を感じ、おびえ、苦しむ母の様子が目に浮かんできます。母はもうこの世にいないので、話を聞くことも、私なりに精一杯励ますこともできないけれど、「たったひとつの言葉が人生を左右する。そして、時には『死』に迫いつめることもある。言葉って実は重たいものなんだ。」と思いました。

これは母の身の上に起きたことですが、私が亡くなっていたとしてもおかしくありません。母や私が経験したのは「言葉の暴力」でしたが、世間には身体

に暴力を受けている人もいて、肉体的にも、精神的にもボロボロになり、一人で苦しんでいる人が沢山いると思います。「いじめ」を経験したことがある人だからこそ分かる辛さ、伝えられないもどかしさ、怖さがあります。辛く苦しい思いを伝えたいけれど、それがバレた時、今より大変なことになるのは絶対に嫌だし怖い、という負の連鎖が続いていってしまう人がいるのも事実です。しかし、そんな時だからこそ周りに伝えてほしいと私は思います。一人で抱え込まず、何人かでその苦しみを分け合って、心に抱えているものを軽くして、少しずつで良いから、前を向けるようになったら、きっと周りも変わっていくと思います。素直に「辛い。助けてほしい。」とSOSを出せば、気付いて手を貸してくれる人が絶対います。私の周りは「いじめをしている子が怖くて助けられなかった。」と言っている人もいました。「助けたい。」と思ってくれている人がいたんだと思い、心が温かくなりました。私の命も私の周りの人たちの命もとても大切です。命の大切さは、自分が大切にされていると実感することで分かるものだ、と尾木ママがおっしゃっていましたが、私もその通りだと思います。自分が、誰かにとっての大切な存在なのだ、と分かった時、人は自分の命も人の命も大切にするようになるのではないのでしょうか。

今の日本のいじめ防止対策は、いじめを受けた人の救済を重視していますが、いじめを外野から見ている人たちには、あまり焦点があてられていない気がします。これでは、いじめを根本的になくすことにはつながりません。もっと、生徒が自分の意見を持ち、主張できる機会を増やし、基本的人権について自分なりの意見を持たせるべきです。それが、私たちが将来、自分たちの基本的人権を守っていくための力になると思います。

最後に、「いじめ」は立派な犯罪です。SNSに書き込んだ言葉は、いつかは消えるかもしれないけれど、心の傷はいつになっても消えません。これ以上、私や母のように苦しんでいる人を見たくありません。私は、苦しんでいる人に気付けるような人になりたい、SOSを出している人がいたら、話を聞き、一緒に立ち向かっていく、そんな人になりたいです。また、今の時代は、言葉ひとつで人を殺してしまうような時代です。だからこそ私は言葉に気をつけて日々の会話をしたいです。